

大エジプト博物館保存修復センター

ひだか しんご
日高 真吾 民博 文化資源研究センター

大エジプト博物館保存修復センターの外観



大エジプト博物館に収蔵予定の太陽の船

膨大な文化財を二回

エジプトでは、二〇二二年の開館を目指して大エジプト博物館の建設が進んでいる。建設場所は、ギザのピラミッドの目の前であり、有名なツタンカーメンのマスクや太陽の船をはじめ、エジプト国内に散在している膨大な文化財を収蔵、展示する大規模な博物館となる。わが国は、国際協力機構（JICA）から三四八億円をエジプトに貸付し、資金協力をおこなうとともに、大エジプト博物館の付属施設となる大エジプト博物館保存修復センターに専門家を派遣し、文化財保存の技術支援を実施している。ここでは、わたしが文化財保存の専門家として派遣された、大エ

ジプト博物館保存修復センターについて紹介したい。

若手研究者とのワークショップ

大エジプト博物館保存修復センターは、二〇一〇年六月に開館し、現在、エジプト国内の文化財が暫時、搬入されている。おもだった活動は、搬入された文化財を収蔵庫に配架していくことと、破損や劣化の進んだものについて適切な保存修復をおこなうことである。また、文化財管理を適切におこなうためのデータベースの構築、虫害対策のための殺虫処理、保存修復に必要な情報となる科学分析もおこなわれている。スタッフの大半は二〇代から三〇代と若く、保存科学の知識は有しているものの、実践経験の少ない若手の研究者である。わたしがおこなったワークショップのおもな内容は、中性紙の厚紙やクッション材を利用し、文化財の大きさや形状に応じた収納箱を製作するというものであった。参加者は、収蔵庫管理室、石質文化財保存修復室、木質文化財保存修復室、有機物文化財保存修復室、無機物文化財保存修復



保存修復ラボの様子 若手の研究者が日々技術を磨いている

室、ミイラ保存修復室の部屋から選出された二五名の若手研究者であった。

民博の収蔵方法が二役買う

ワークショップは、参加者が積極的に参加してくれ、熱のこもったものとなった。また、後のアンケートでも好評だったことから、民博の収蔵方法がエジプトにおいても大いに参考になるものであったのだろうと考える。

エジプト文明には多くの日本人が関心を寄せる。しかし、現在のエジプトは政局が不安定。早く落ち着きを取り戻し、日本との文化財交流が再開されることを願う。